

YOMI

人世界が舞台

ひら いもと き
平井 元喜さん 35

安らぎの音楽で平和を



喜びと悲しみ、希望と絶望
様々な感情が表現されて
いるようだった。ピアノ作品
集「カント・アモロソ」(愛の
調べ、2006年)の全23曲を
聞いた印象だ。「心を込めて弾
いています」。変化に富んだ音
の理由がそこにあった。

祖父は童謡「とんぼのめが
ね」などを作曲した平井康三
郎氏(2002年死去)、父
親は日本を代表するチェリス
ト平井丈一朗氏(71)だ。音楽
一家に生まれ、音楽は身近な
存在だった。子供の時、康三

郎氏はよくピアノを弾いてく
れた。祖母はバイオリンを教
えてくれた。「楽器がおもち
や代わりだった」。中学時代
には楽器を自在に操り、作曲
の才能も見せたが、音楽を強
制されたことはなかった。音
楽の厳しい世界を知り抜く祖

父からは「幅広い人生経験が
大切」と言われ、高校時代に
はサッカーに熱中。「音楽は
興味の一つ」に過ぎず、大学
では、映画製作に興味を持ち、
演劇や舞踊も学んだ。
だが、大学4年の時、将来
を真剣に考えた時、音楽が天

■ ロンドンを拠点に活躍するピアニスト兼作曲家

略歴 1973年3月、東京・
渋谷生まれ。桐朋高を経て、95年、
慶応大学文学部哲学科を卒業。96
年に英国に渡り、99年、英国王立
音楽院大学院ピアノ科卒業。ロン
ドン・シティ大学などを経て、ロ
ンドンを中心に欧米や日本で公
演。英国の「サー・ジャック・ラ
イオンズ音楽賞」受賞。

職と再確認する。演奏会で知
り合った英国人のピアニスト
に誘われ、英国に渡り、生ま
れて初めて音楽だけに没頭し
た。学校では、ただ弾くだけ
でなく、心で弾こうとするイ
メージトレーニングや、楽譜
をよく読む訓練などを何度も
やり直した。

卒業後、「音楽の刺激を受け
られる街」として、ロンドンに
とどまり、演奏活動を本格化

させた。金融街でサラリーマ
ンを対象に昼休みに演奏会を
開いたり、老人ホームを回っ
たり、康三郎さんを追悼する
コンサートも開いた。日本に
も活動の場を広げ、欧州連合
(EU)の後援で都内でリサイ
タルを開いたり、丈一朗さん、
指揮者の兄、秀明さん(38)と
3人で共演したこともある。

「音楽が安らぎやゆとりの
気持ちを与え、それが多くの
人に広がれば、平和が生まれ
るのではないか」。05年にロ
ンドンでインド洋津波救済
支援コンサートを開くなど、
音楽を通じて平和への思いが
強まる。そのためにも、音には
自分の魂を込めようと努力す
る。演奏家の「幅広い人生経
験」が音に表現されれば、それ
だけ観客への訴えも大きくな
るからだ。亡き祖父の言葉を
胸に、世界を舞台にした活動
は続く。(ロンドンで 本間
圭一、写真も)